

# 漢字指導の改善研究報告

～漢字が読めれば学びが変わる～



④	③	②	①
葉	酒	湯	苦
もみじが赤く紅葉する。 葉が茶色くなって落葉する。	あま酒は子どもでも飲めます。 飲酒運転は禁止です。 酒屋さんでお酒を買う。	ポットの湯でお茶を入れる。 熱湯がかかって大やけどする。 温泉のお湯につかる。	苦しい薬を飲む。 苦勞して、やっと宿題ができた。 マラソンはとても苦しい。

【漢字音読名人（小3年）】

6

【読んでみよう】

# 1 研究のねらい

◎どの子ども意欲的に取り組み、無理なく漢字を習得できる  
指導法を研究開発する。

## 2 研究の動機

### ●文章が読めない子どもたち

- ・全国学力学習状況調査結果低迷の背景..... **問題文が読み取れない**
- ・発達障害・学習習慣未形成のために、  
読み書きの力が弱い子どもたち.....

**「学び」そのものから落ちこぼれていく**

# ●なぜ文章が読めないのか？

## ■玉緒小の読書活動から



### 【図書の本貸出数】

平成20年度 約3,500冊

平成21年度 10,713冊

平成22年度 15,682冊

平成23年度文部科学大臣表彰受賞

にもかかわらず.....

絵本から読み物(文字)への渡りのところで脱落

漢字(熟語)が読めない。意味が取れない。

### 3 研究の仮説

#### 仮説①

「読み書き同時進行」より「**読み優先**」学習の方が  
学びやすいのではないか。

# 仮説の根拠① 「発達障害児が書き言葉を習得した道筋」

小学校1年で全くひらがなが理解できなかったA君

【母親がマンツーマンで指導】

◎「漢字の表意性」に着目

①漢字を読む・漢字を使った文作り

②漢字を書く

小学校6年で教育漢字を全て習得した

今、5カ国語を話し、国連事務局に勤務

## 仮説の根拠② 「江戸時代の寺子屋教育」

江戸時代の幕末期においては、武士はほぼ100%読み書きができたという。庶民層でも男子で49～54%は読み書きができた。同時代のイギリスでは下層庶民の場合、ロンドンでも字が読める子供は10%に満たなかった。-(石川英輔『雑学「大江戸庶民事情」』講談社文庫)

京都に近く、通商、交通の要所(近江商人の本拠)であった滋賀県の読み書き能力が最も高い。男子はほぼ90%、女子でもほぼ半数が読み書きができるとされている。

(齊藤泰雄(国立教育政策研究所)論文より)





寺子屋図 (渡辺 崋山 筆)

有 誤 失 を 予 以 辨 之  
 以 志 味 嗜 酒 也  
 皆 油 麴 油 蠟 燭 紙  
 筆 墨 水 紙 糸 綿 布

商売往来」(商人の子どもが習う教科書)



寺子屋の規則 (山城国善正寺)

附り手なく讀毎日懈怠有間發の

⑨ 解説 附り、手本之讀毎日懈怠有間敷候 (つけたり、てほんのよみ、まいにちけたいあるまじくせうろう)

文意 付け加えて言うのと、手本を読む事は (とても大切なことなので) 毎日怠りなく続けなければならぬ。

◎毎日欠かさず手本を読むこと

是又高からす下からす  
差別分明に可被讀事

⑩ 解説 是又高からす下からす、差別分明に可被讀事 (これまた、たかからずひくからず、さべつぶんめいによまるべきこと)

文意 そしてまた、読む時の声の大きさは、大き過ぎないように、かといって小さ過ぎもしないよ  
うに、そしてただらと読まないではっきり一言一言明らかに読みなさい。

◎適切な声の大きさと、はっきり読むこと

将又大書を揚文庫硯箱と  
蓋杯なる拍子を取大勢一度よ

お讀の役するを用ひ

⑫ 解説 将又、大書を揚、文庫硯箱之蓋杯ニ而拍子を取、大勢一度に相読候儀、可為ニ  
無用一候 (はたまた、おとおとをあげ、ぶんこすずりはこのふたなどにてひょうしをとり、おお  
ぜいいちどにあいよみせうろうぎ、むようたるべくせうろう)

文意 あるいは、文庫や硯箱のふたなどをたたいて大きな音をたてながら拍子をとって、おおぜい  
で一度に読むような事は、してはならないことである。

◎硯箱のふたをたたいて拍子を取りながら、大勢で一度に  
読むようこととはしないこと。

## 仮説②

上学年の漢字もルビ付きで表記すれば難易度は変わらず、漢字の習得が自然な形で進むのではないか。

はつ明 → <sup>はつ</sup>発明

- ・そのことで読みの難易度は変わらない。むしろ、より文章が読みやすくなるのではないか。
- ・上学年の漢字も下学年から目に触れさせていくことで、漢字の「読み」「形」「意味」が自然と学べていくのではないか。

# 仮説②の補足

文科相初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官  
田中 裕一氏の講演資料より

## □新学習指導要領国語科解説(案)

### ①漢字の扱い

読みの指導では、これまでどおり学年別漢字配当表に配当されている漢字を当該学年で指導することとするが、上の学年に配当されている漢字や学年別漢字配当表以外の常用漢字についても、必要に応じて振り仮名を用いるなどして児童が読む機会を多く持つようにする。

振り仮名付きの漢字の提示を増やし、漢字を読む機会を多くもつようにすることにより、児童の語句の読みと意味理解を一層高めることが期待される。

### 3 研究仮説の実証実践

#### 実証実践 1

「6年生までに習う漢字は全て表記。未習の漢字にはルビを打つ。」  
子どもたちはどう受け止めるだろうか？

H27年度3学期

3年国語教材「人をつつむ形」での試行実践

湖東第一小学校・湖東第二小学校・玉緒小学校

## 6年までの漢字を全てルビ付き表記にしたテキスト

### 人を包む形——世界の家巡り

小松 義夫 文

私は、世界中を訪ねて、人がいて家があるという風景を、たくさん写真に撮ってきました。

ポリビアには、高さ三千五百メートルの高原に、どんぐりのような形の家がありました。塩分の多いこの土地に、しっかりと根を張る草がありません。人々は、根の張った土をブロック形に切り出して、積み上げて家を作ります。

ルーマニアでは、森の近くの村に、屋根まで木の板でできている家がありました。その屋根には、まぶたが付いた人間の目のような、煙出しの窓がついています。冬は雪が多いので、雪が落ちやすいように、屋根の傾きを大きくしています。

どの家も、その土地の特徴や人々の暮らしに合わせて、地元にある材料を使い、工夫して作られています。

では、私の訪ねてきた世界の家を紹介しましょう。



屋根に目のような窓のある家(ルーマニア)



どんぐりのような形の家(ポリビア)

### ○音読用テキストとして活用

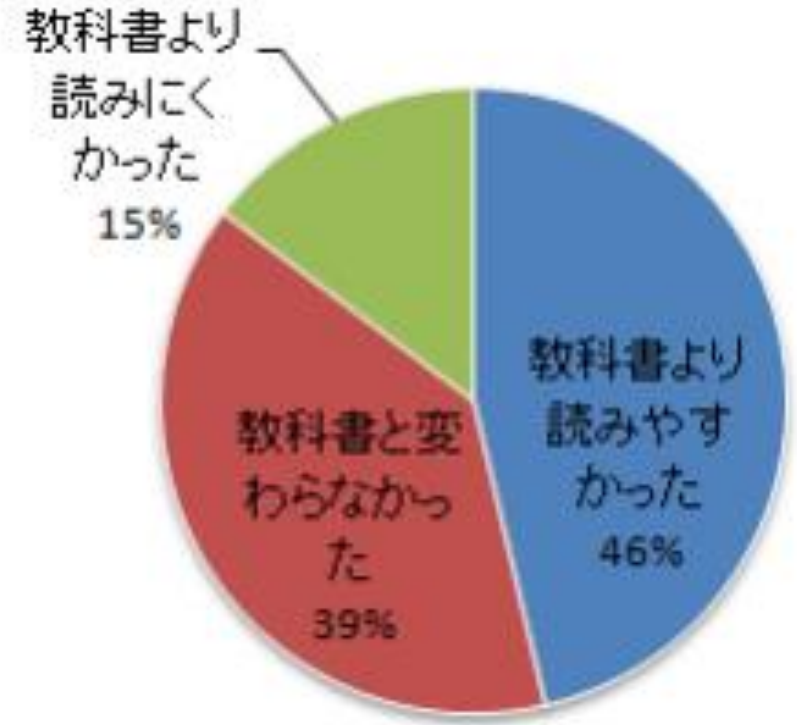
・読めるようになった漢字のルビはぬりつぶしていく



# 子どもたちへのアンケート結果

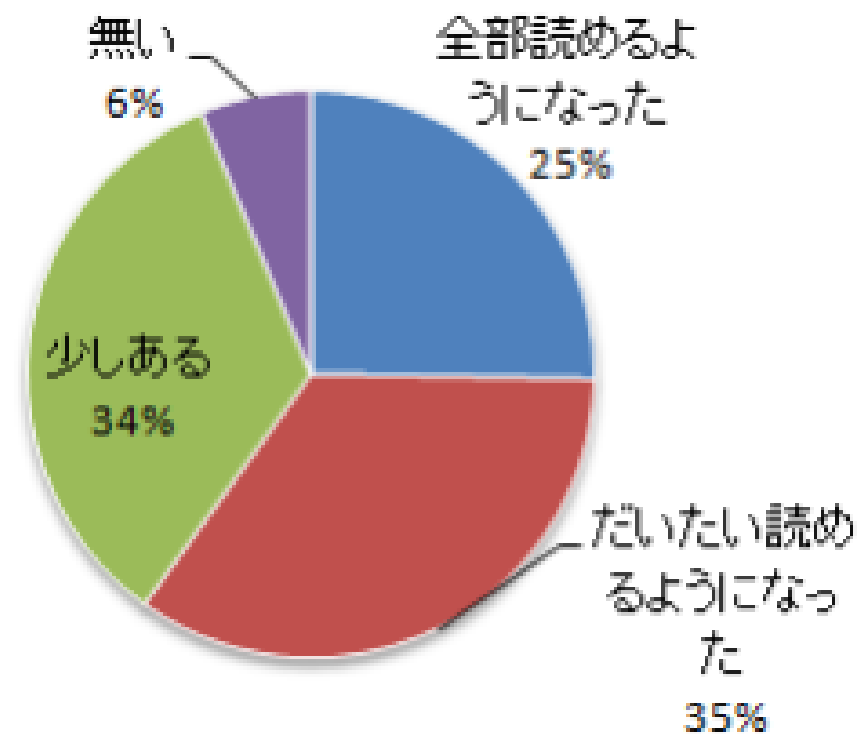
1. このテキストで音読練習してみて、どうでしたか？

選択項目	人数	構成比
教科書より読みにくかった	14	14.7%
教科書と変わらなかった	37	38.9%
教科書より読みやすかった	44	46.3%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



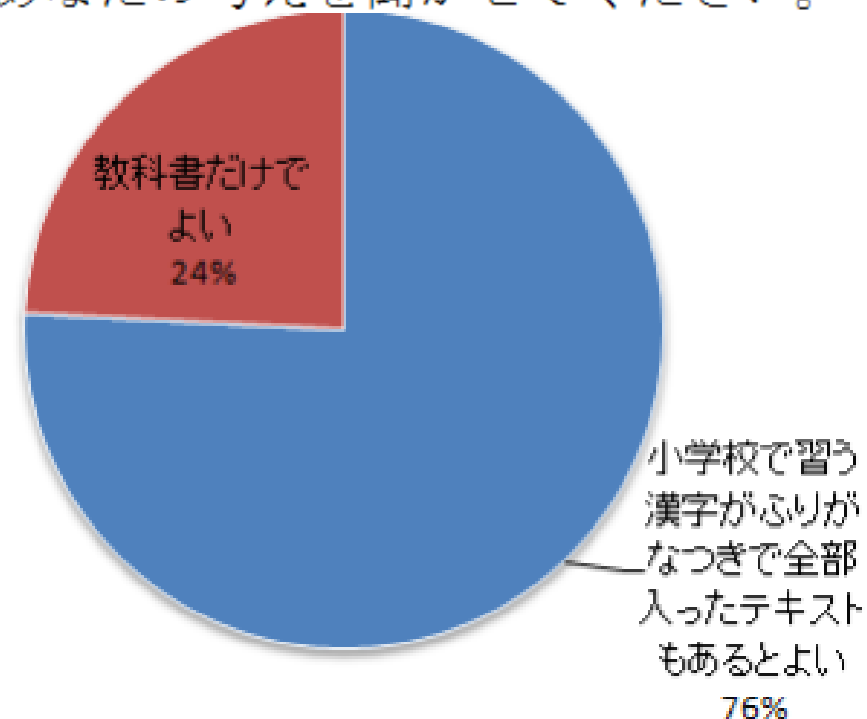
2. 3年生では習わない漢字で、ふりがながなくても読めるようになった漢字がありますか？

選択項目	人数	構成比
無い	6	6.3%
少しある	32	33.7%
だいたい読めるようになった	33	34.7%
全部読めるようになった	24	25.3%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



3. こういうテキストで音読練習することについて、あなたの考えを聞かせてください。

選択項目	人数	構成比
教科書だけでよい	23	24.2%
小学校で習う漢字がふりがなつきで全部入ったテキストもあるとよい	72	75.8%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



こうした結果から、研究仮説についての確かな手応えを感じたのだが、

「教科書教材の改変は特別なニーズのある児童に限る」という制約があると知り、別の方策を考えることとなった。

## 実証実践②

# ◎「めざせ！漢字音読名人」

### ■研究協力校(学級)

玉緒小学校

八日市南小学校

八日市西小学校

箕作小学校

湖東第三小学校

蒲生北小学校

能登川西小学校

能登川北小学校

**計 8校**

# めざせ！漢字音読名人

2

【読んでみよう】

読めた

④	③	②	①
章	豆	感	緑
<p>腕章<small>かんしょう</small>をつけたリーダー。</p> <p>物語<small>ものがたり</small>の第一章<small>いちしやう</small>を読<small>よ</small>む。</p> <p>長い文章<small>ながいぶんしょう</small>を書<small>か</small>くのは苦手<small>にくて</small>だ。</p>	<p>豆腐<small>とうふ</small>は大豆<small>だいず</small>から作<small>つく</small>ります。</p> <p>豆<small>まめ</small>電球<small>でんきゅう</small>をつける。</p>	<p>感想文<small>かんがうぶん</small>を書<small>か</small>く。</p> <p>感動<small>かんとく</small>したことを詩<small>し</small>に書<small>か</small>く。</p> <p>熱心<small>ねっしん</small>に取り組<small>く</small>むので感心<small>かんしん</small>した。</p> <p>豆まきをして、鬼<small>おに</small>をやっつける。</p>	<p>緑色<small>りよく</small>の服<small>ふく</small>を着<small>き</small>た人<small>ひと</small>。</p> <p>新緑<small>しんりよく</small>のうす緑<small>りよく</small>の葉<small>は</small>。</p> <p>さばくを緑化<small>りよくか</small>する。</p>

【3年生の「漢字音読名人」の例】

※当該学年までの漢字は太字傍線で表示

上学年の漢字も表記。

■朝自習などの短時間を使って音読練習

・音読して読めるようになった漢字のルビを塗りつぶす。

・太字傍線の漢字が全部読めるようになったら……



【確かめてみよう】

合格

①	緑	<p>緑色の服を着た人。</p> <p>新緑のうす緑の葉。</p> <p>さばくを緑化する。</p>
②	感	<p>感想文を書く。</p> <p>感動したことを詩に書く。</p> <p>熱心に取り組むので感心した。</p>
③	豆	<p>豆まきをして、鬼をやっける。</p> <p>豆腐は大豆から作ります。</p> <p>豆電球をつける。</p>
④	章	<p>長い文章を書くのは苦手だ。</p> <p>物語の第一章を読む。</p> <p>腕章をつけたリーダー。</p>

※当該学年までの漢字のルビは消してある

・全部読めたら合格。次に進む。

□ 取組の方法

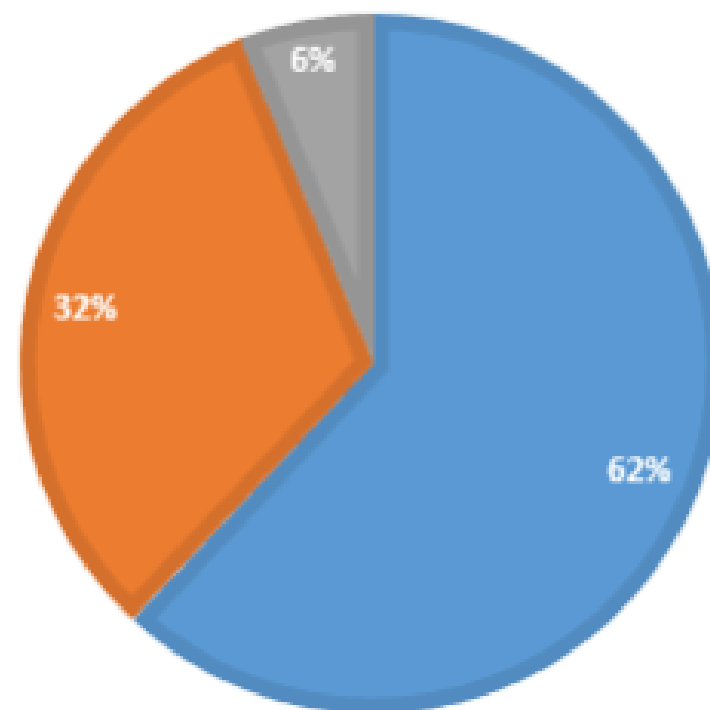
学校名	学年	活用時間帯	活用方法
A小	2年	・ 帰除終了後の5分間 と、帰りの会の準備 ができた後	・ 合格欄を三分割し、 友たち3人に聞いてもらい合 格のサインをもらっ たら、先生に聞いてもら う。合格したらシールを 貼る。
B小	2年	・ 国語の学習時間 ・ 朝スキルタイム	・ 担任が聞いて評価。
C小	4年	1時間 ・ 休み時間	・ 全プリントを綴じたものを使う。 ・ 1週間ごとに範囲を決めて、取り組ませる。 ・ 印刷したものを1カ所においておき、合格したら 次のプリントを取って各自ファイリングしてい く。
		1時間 ・ 朝学習の課題 の後、中休み、 給食の準備が 終わってから	
D小	3年	・ 宿題と朝自習	・ 宿題で覚えてくるようにして、朝自習で確認する。
E小	3年	・ 朝自習	・ 朝の活動に組み込んでやっていたが時間が取れない ので、後半家庭学習の課題として取り組ませた。 ・ 昼休み時間に担任のところへ来て評価。 ※3、4年とも、3学期は時間の確保が難しく継続 的に取り組むことができなかった。
	4年	・ 国語の時間の3分	
F小	4年	・ 朝のドリルタイム (火)(木)と回し分 ・ 国語入り授業の最初 や最後に。宿題でも。	・ 担任が聞いて評価。 後半は、教師のチェックは外し、友達2人に聞いて もらってOKなら合格という形にした。

## ■取組結果

9月から取組を始めて2ヶ月後、10月末時点でのアンケート結果

	前より好き になった	前より嫌い になった	変わって いない
A小2年	10	1	3
B小2年	52	5	16
C小3年	17	3	25
D小3年	26	0	12
E小4年	8	1	6
F小4年	19	3	6
合計	132	13	68

■前より好きになった ■変わっていない ■前より嫌いになった



## □ 「前より好きになった」理由

- ・ふりがながついているから漢字音読がすきになった。
- ・書くのと読むのはちがう。
- ・漢字がどんどんなれてきたから。いろいろ漢字を見て勉強したから。練習したから。
- ・ならっていないよみかたもよめるようになったから
- ・だんだんむずかしくなってきたから。むずかしいけどすきになれたから。
- ・前はひらがなで書いた方がかんたんだからひらがなでかいてたけど、音読名人をやってから、かん字でかくようになったから。

## ☆特別な支援を必要とする子どもたちも意欲的に取り組めた

◎低位・外国籍の子も意欲的に取り組めた

◎就学相談にかかるレベルにあった子ども漢字音読名人は意欲的に取り組めた。

◎読みに課題のある児童が、みんなと同じ教科書で読めるようになってきた。

・発達障害で読み書き・計算に苦しんでいた5年生のAさん。

漢字音読名人の2年版から取り組ませたところ、見違えるような学習意欲を見せるようになった。

夏休みの宿題にもそれを選び、「がんばってるよ。」と担任に伝えているとのこと。

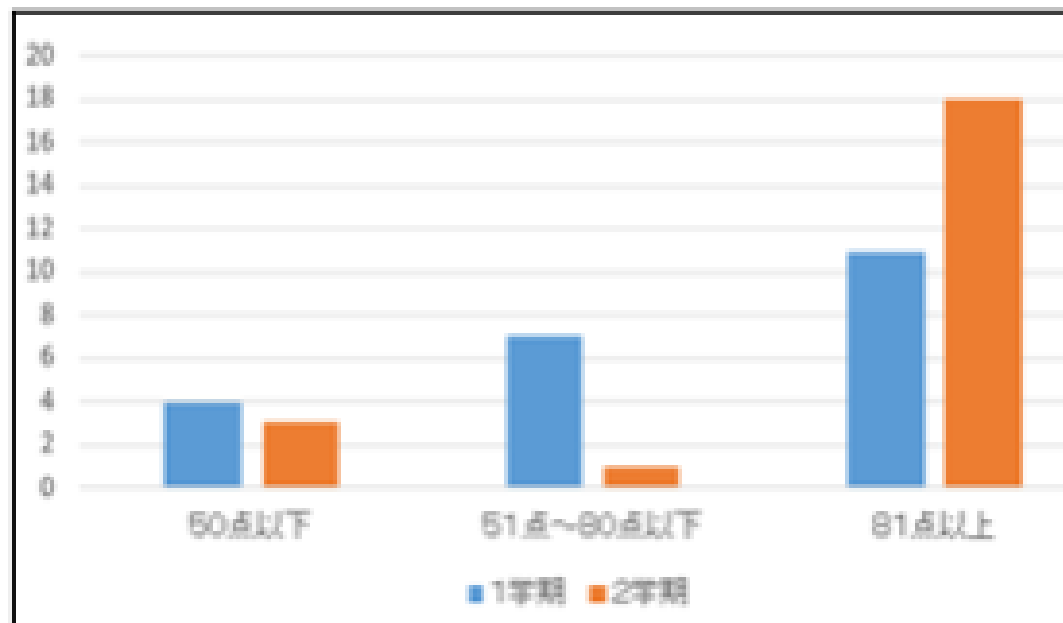


## ■漢字の習得状況（書き）の変化

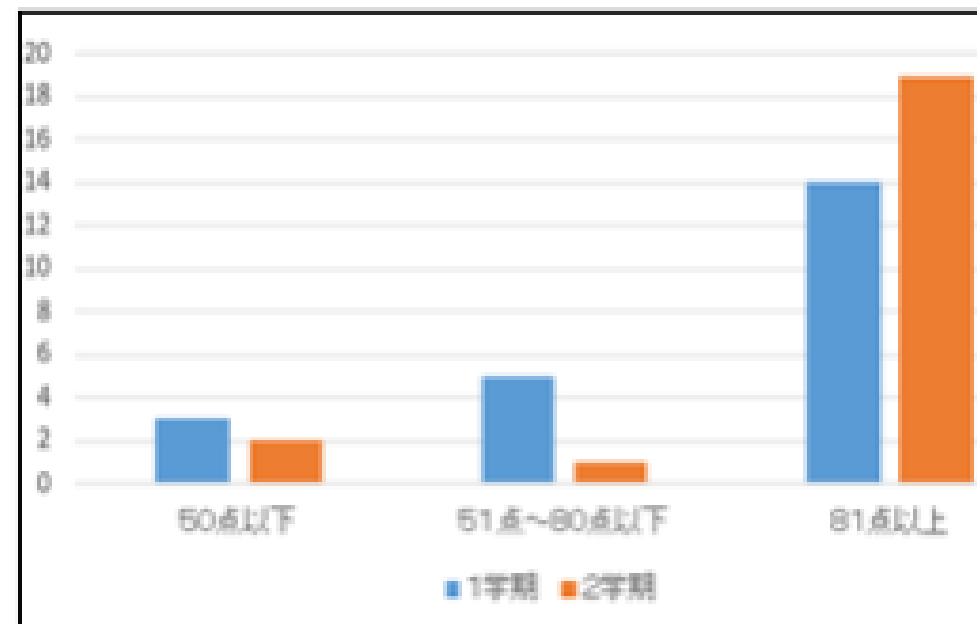
- ・漢字音読名人の取組との関係は不明だが、子どもたちの漢字を書く力は高まった。  
(A小2年)
  - ・漢字の読み練習との関連は不明だが、学期末の50問テストの成績が1学期より上がっている。  
(D小3年)
- 漢字を使うようになった
- ・毎日の日記や行事の作文を書くときに音読名人に出てきた漢字を使っている。  
(B小2年)

[D小 3年]

漢字小テスト14回分平均点



学期末まとめ漢字テスト結果



外国籍児童等、学びに困り感のある児童の場合

□漢字25問テスト結果(取組前→3学期末)

A子 (外国籍)	12 → 80	K子 (外国籍)	46 → 92
A男 (外国籍)	20 → 68	Y子 (外国籍)	76 → 88
Y男 (低学力)	74 → 96	N男 (低学力)	64 → 88

## ■漢字指導改善研究の結果から言えること

「漢字音読名人」の取組によって学習意欲が向上し、漢字の習得も進んでいる。



「漢字の読み優先」指導は有効だと言えるのではないか。

## ■漢字の読み優先指導のもう一つの展望

漢字の習得が進めば、文章を読み下す力も育ち、  
情報収集力(活用力)が高められるのではないか。

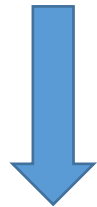
## ■子どもたちの読書力・情報収集力はどう変容したか？

○漢字音読名人に取り組むようになってから、図書室へ行く頻度が増えて、楽しみながら分厚い本を読む子が増えた。

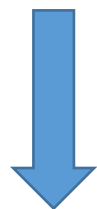
○子どもの生活の中に「読む」活動が増えたことで、読むことへの抵抗が少なくなっている。総合的な学習や社会科の学習で図書室へ調べに行っても、今までは難しい文章だとすぐあきらめていたのが、じっくり文章と向き合う子どもの姿が多く見られた。文脈の中で意味を考えたり捉えたりしようとする子も見られるようになってきた。

**組織的実践によって、子どもたちの学びの姿が大きく変容することが期待される**

漢字が読める



文章が読める



情報を取り込める

# 最後に

新学習指導要領改訂の根幹にある考え

先行き不透明な時代を切り開いていくための学力を  
身につけさせる



**活 用 力**

読む力（情報を得る力）



## 4 「読み優先」漢字指導の多様な展開

(1)「漢字音読名人」

(2) 子どもたちが作る「漢字音読名人」

(3) 漢字ドリルを使った読み先行学習

## (4) 「お話音読名人」 ・漢字ルビ付き表記の短編音読テキスト

### お話音読名人初級①

「赤い ろうそく」 新美南吉 作


次のお話を一場面ずつ音読練習しましょう。  
読めるようになった漢字のふりがなは鉛筆で塗りつぶします。  
ふりがなを消しても全部読めるようになったら、隣の友だちに聞いてもらいましょう。  
正しく読めていたら合格のサインをもらって、次の場面に進みましょう。

①  
山から 里の方へ 遊びに行ったら さるが 一本の 赤い  
ろうそくを 拾いました。赤い ろうそくは たくさん 花火だ  
ものではないですね。それで さるは 赤い ろうそくを  
と 思い込んでしまいました。  
さるは 拾った 赤い ろうそくを 大事に 山へ 持って 帰  
りました。

合格

# (5) 「漢字カルタ」

**地**  
地面めんから  
つくしが出たよ  
もう春だ




**楽**  
音楽の  
時間は楽しく  
歌いましょう



**書**  
書写しゃの時間  
ていねいな字で  
書きました



**晴**  
晴れた日に  
たんぽぽの花  
咲さきました



**新**  
新しい  
クラスになったよ  
新学期



**魚**  
水そうで  
泳およぐ魚は  
金魚です



## (7) パワーポイントをつかったフラッシュカード



【玉緒小3年 h23年度】



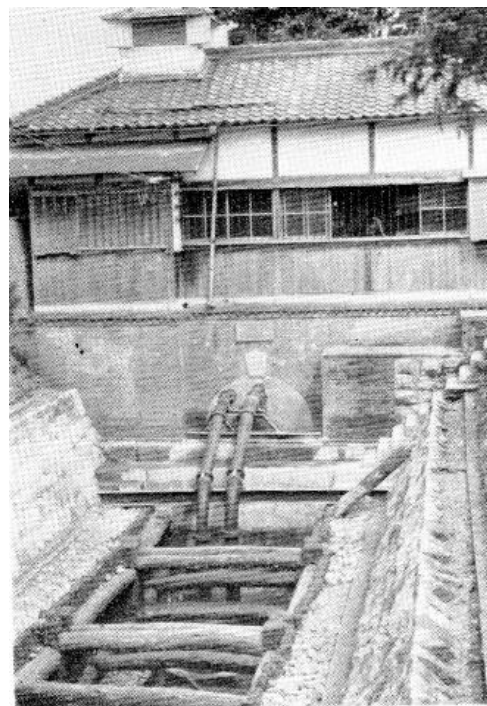
# ■ 「江戸時代の教育」で欧米の技術を取り込んだ 明治時代の若者たち



田辺朔郎  
(1861～1944)



22歳で琵琶湖疏水建設を手がける



日本最初の灌漑用動力揚水建設(明治42年)  
(豊郷町石畑)

区長 村岸峰吉 27歳

